

①
(5～7月)

②
(7～10月)

③
(7～10月)

④
(8～11月)

外来種とは…

もともとその地域にいなかった（なかった）が、人間によって運び込まれた生物のことで、外来生物とも言われる。

園芸用、食料用、ペット、偶然（荷物や靴底などに付着）によって、国外または他の地域から持ち込まれている。

外来種を繁茂させないためには、
「種子を地面に落とさない」「種子が付く前に駆除を行う」ことが大切です。

①オオキンケイギク
 ②オオハンゴンソウ
 ③オオバタクサ
 ④セイタカアワダチソウ
 ※カッコ内は開花期

日本の原風景が残る「勝山」の自然環境を守りたい！

昨年6月3日実施のオオキンケイギク一斉駆除の様子（法恩寺山有料道路にて）

①根っこから駆除

②袋に入れて

③焼却処分

外来種の拡がりを食い止めよう

秋になれば無数の赤とんぼが舞う、そんな日本の原風景が今でも残る勝山市。ところが近年、写真の植物を市内の至るところで見かけませんか。実はこの植物は“外来種”で、繁殖力がとても強く、在来種（もともとその地域にいる生物）が追いやられてしまい、生態系のバランスがくずれてしまうことがあります。

美しい自然は、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの魅力の1つでもあります。勝山市の素晴らしい風景を次世代に残していくためにも、外来種の拡がりを防ぎましょう。



平成29年度 勝山市内の外来種駆除実績

※ジオパークまちづくり課調べ

外来種	駆除量 (H28)	駆除量 (H29)
オオキンケイギク	830kg	920kg
セイタカアワダチソウ	3,070kg	2,140kg
コカナダモ	870kg	390kg
オオハンゴンソウ	345kg	320kg
オオバタクサ	0kg	830kg
合 計	5,115kg	4,600kg

外来種は、一度拡がってしまつと、その拡がりを防ぐ対策を立てることが難しいと言われています。

外来種による問題を防ぐためには、不注意で持ち込んだり、野外に捨てたりしないようにすることはもちろんですが、すでにいる外来種の拡大を防いだり、駆除したりすることが大切です。

市内全域で駆除活動を実施中



市民の皆さまのご協力をお願いします

初夏の池ヶ原湿原
植物観察会&外来植物
抜き取り活動

ミズチドリなどの初夏の湿原植物を観察の後、外来植物の抜き取り作業を行います。

とき▼6月24日(日)
午前9時30分～11時30分

集合▼池ヶ原湿原駐車場
準備物▼汚れても良い服装（長袖・長ズボン）、帽子、長靴、軍手、飲み物、タオル、有ればサンカクホーなど草を根ごと取り除く道具

外来種駆除活動
とき▼

①8月26日(日)午前7時～
②9月1日(土)午前7時～

会場▼

①弁天グラウンド
②勝山IC付近

※②は鹿谷町まちづくり協議会主催

秋のヨシ刈り活動
とき▼10月20日(土)

集合▼池ヶ原湿原駐車場
園ジオパークまちづくり課
(市役所2階)

☎ 88・8126